

ライフサイエンス分科会セッション

◆ バイオ知財の潮流—われわれはどこに向かうのか？ ◆

【背景と概要】

知財立国宣言から 10 年が経ちました。その間、ライフサイエンス分野のイノベーション戦略における知的財産の重要度は増すばかりですが、その戦術は絶えず変化をしています、本年度はいろいろな意味で、バイオ知財のイノベーションに関する戦略を総括し次のステップに向う飛躍を考えるタイミングであると思われます。

これまで、バイオ知財はいろいろな試行錯誤が行われ、大きな動きは収束する方向かとは思われましたが、また新しい課題が生まれています。その中で、我々知財人材は、次の時代に向かって進んでいかなければ行けません。今回、現状の課題の分析を行い、研究課題を明確にし、さらなる知財学の発展の方向性を皆で討論する場を設けたく今回の分科会セッションを企画しました。

今回の企画セッションでは、各方面の専門家のそれぞれの経験や観点から、バイオ知財の今までの流れの整理と問題点および新しい流れの予想などを講演いただき今後の大きなライフサイエンス分野の知財研究について、課題はなにか？何が必要か？どこに向かうのか？などの問いに、それぞれの視点からの意見とともに、参加者と共に討論を行いたいと思います。

【発表内容と講演者（講師名は敬称略）】

辻丸光一郎：「ライフサイエンス分野の特許性の変遷と今後の見通し」

弁理士の視点からいままでのライフサイエンス分野の特許に関しての、いままでの流れと現在の課題、今後の向かう先について述べる

仙石慎太郎：「ライフサイエンス分野の知財・標準形成に関する現状と課題の事例分析」

先端的科学・技術の事例としてのヒト iPS 細胞について、知財・標準化における我が国の現状・課題を概観し、今後のイノベーションの方策を議論する。

羽鳥賢一：「今後の大学の知財のあり方」

大学の知財の観点から、米国科学アカデミーによる「公共の利益のための大学知財マネジメント」を題材に、今後の知財のあり方について述べる。

隅藏康一：「ライフサイエンス分野の知財研究の今後の論点」

いままでの知財学会におけるライフサイエンス分野の発表を振り返りながら、知財研究の今後の論点について述べる。

司会およびモデレーター：鈴木睦昭

【パネルディスカッション】

バイオ知財の今後の課題や方向性について、一つの回答を出す事は困難であるが、いくつかの方向性、課題、どのような知財研究が必要であるか、講演者と会場の参加者で討論を行う。

ライフサイエンス分科会セッション

◆ バイオ知財の潮流—われわれはどこに向かうのか？

【略歴】

○辻丸光一郎 辻丸国際特許事務所 代表弁理士、博士（工学）香川大学客員教授
1999年弁理士登録。特許業務法人池内・佐藤アンドパートナーズ東京オフィスマネージャーを経て、2005年に辻丸国際特許事務所設立

主な著書に「バイオ特許の実務」（経済産業調査会、2004年）など

○仙石慎太郎 京都大学物質-細胞統合システム拠点（WPI-iCeMS）准教授・同イノベーションマネジメントグループ代表

東京大学大学院理学系研究科修了、博士（理学）。マッキンゼー・アンド・カンパニー、ファストトラック・イニシアティブ（独立系ベンチャーキャピタル）、東京大学大学院薬学系研究科講師、京都大学産官学連携センター寄付研究部門准教授を経て、現職。研究・技術計画学会業務理事、東京大学薬学部非常勤講師、内閣府・総合科学技術会議 最先端・次世代研究開発支援（NEXT）プログラム研究課題「幹細胞科学技術のイノベーション・マネジメント研究と人材育成・事業化支援」（平成22-25年度）研究代表

○羽鳥賢一 慶應義塾大学大学院理工学研究科 特任教授

1975年群馬大学大学院工学研究科修士課程修了。特許庁入庁後、審査官・審判官の実務経験のほか、首席審査長、上席審判部門長、(独)産業技術総合研究所の知的財産部長（初代）等を拝命。2007年慶應義塾大学知的資産センター所長・教授、2011年同大学研究連携推進本部副本部長・教授を拝命。2012年6月～現職。2007年～大学学技術移転協議会代表理事・副会長。2009年～文部科学省産官学連携推進委員会専門委員。

主な著書に「公共の利益のための大学知的財産マネジメント」（米国アカデミー出版、羽鳥監訳、JST翻訳、2012年）、よくわかる特許（共著、オーム社、2006年）など

○隅藏康一 文部科学省科学技術政策研究所 第二研究グループ 総括主任研究官／政策研究大学院大学 准教授

東京大学大学院工学系研究科修了（博士（工学））。東京大学先端科学技術研究センター助手をへて、2001年より政策研究大学院大学助教授、2007年より同准教授。日本知財学会理事、研究・技術計画学会理事、知的財産マネジメント研究会（Smips）総合オーガナイザー。主な著書に『幹細胞の特許戦略』（隅藏・竹田編著、発明協会、2011年）、『知的財産政策とマネジメント』（隅藏編著、白桃書房、2008年）など

○鈴木睦昭 国立遺伝学研究所 知財室室長（モデレーター）

静岡薬科大学大学院博士課程修了（薬学博士）、国立生理学研究所、テキサス大学オースチン校博士研究員、静岡県立大学環境科学研究所助手、日本たばこ産業株式会社プロジェクトリーダーをへて2006年より現職。東大先端知財コース（IPMS）4期生。知的財産マネジメント研究会（Smips）産学連携分科会オーガナイザー。主な著書「COP10報告と大学知財本部が注意すべきこと」Vol.6 No.11 2010 など